

相次ぐ災害を乗り越えて

災害後の復旧作業が終わらないうちに、再び災害に見舞われることがあります。それでも、人々は災害に負けずに復旧への努力を続けてきました。その証が各地に残されています。香川県東かがわ市と高知県いの町の例をご紹介します。

■第二室戸台風と集中豪雨災害（香川県東かがわ市）

昭和36年（1961）9月16日の第二室戸台風により、引田町（現東かがわ市）では393ミリの記録的な豪雨となりました。馬宿川堤防が決壊し、洪水と満潮時が重なり海岸地帯の防波壁や堤防が3,000mにわたり決壊しました。被害は家屋の倒壊43戸、半壊33戸、床上浸水600戸、床下浸水700戸などに及びました。復旧作業が行われる中、引田町は10月26日～27日に再び雨量331ミリの集中豪雨に見舞われ、第二室戸台風で被害を受けた小海川が氾濫したほか、堤防の決壊、橋の流出などが相次ぎました。二度の災害による復旧工事は昭和41年3月に竣工し、坂元の国道11号沿いに災害改良復旧完工碑が建てられています。〈参考資料：引田町史編さん委員会編「引田町史」1995年など〉



坂元の災害改良復旧完工碑



(地理院地図に加筆)

■昭和50年台風5号と昭和51年台風17号災害（高知県いの町）

昭和50年（1975）8月17日、台風5号は吾北村（現いの町）に総雨量1,147ミリ、1日雨量711ミリの集中豪雨をもたらしました。山崩れが起こり、谷川が氾濫するなどして、被害は死者5人、負傷者18人、住家の全壊・流失85棟、半壊・浸水280棟、土地の流失・埋没約500haなどに及びました。復旧途中の翌昭和51年（1976）9月12日に、再び台風17号が吾北村を襲い、総雨量1,476ミリ、1日雨量505ミリの豪雨により、住家の全壊4棟、半壊・浸水67棟、非住家損傷45棟などの被害が発生しました。いの町吾北総合支所前に建立されている災害復旧記念碑には、二度の災害復旧の様子のほか、関係者への感謝の気持ちと犠牲者の冥福を祈る言葉が記されています。〈参考資料：災害復旧記念碑及び吾北村編「吾北村史改訂版」2003年など〉



災害復旧記念碑



裏面



(地理院地図に加筆)